

## デザイン工学部

## I 2019年度 大学評価委員会の評価結果への対応

## 【2019年度大学評価結果総評】(参考)

デザイン工学部の教育課程及びそれを支える教員組織については、各点検項目においてそれぞれ高いレベルで達成されていることが確認できる。特に、履修の手引きと「導入ゼミナール」は、新入生を正しい学びの方向に導くうえで秀逸なツールであると評価できる。建築学科で導入されている CARESS (履修支援システム)、システムデザイン学科が2017年度から移行したという「デ工学習支援システム」などは、学科の独自性という点での存在意義も大きい。学科を超えた共有化が可能ならば、さらに素晴らしいシステムとなるのではないかと。それに関連して、学部全体で導入・更新されている「学習達成度自己評価システム」の活用状況について、都市環境デザイン工学科では学生に自己評価結果を提出させ教員が内容を確認している。

## 【2019年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】

デザイン工学部では、2007年の学部創設以来4年毎にカリキュラムの見直しを行っており、2019年度は3回目かつやや大規模なカリキュラム改定を行った。学びの達成度を学生自らが客観的に評価できるシステムとして、それまで学科ごとに設けられていた評価方法を「デ工学習支援システム」として2017年度より学部共通の運用を始めた。都市環境デザイン工学科では、学科独自で行ってきた「学習達成度自己評価システム」に「デ工学習支援システム」を重ね合わせる作業を進めた。この運用に基づき「デ工学習支援システム」をベースとして各学科の必要事項を上乗せしたシステムのあり方を探っていく。

## 【2019年度大学評価委員会の評価結果への対応状況の評価】

デザイン工学部では、学びの達成度を学生自らが客観的に評価できる仕組みとして、「学習達成度自己評価システム」を運用しているが、従来は学科ごとに仕様や評価方法異なっていたが、2019年度の評価結果での指摘を受けて、各学科で評価方法を、システムデザイン学科が運用してきた「デ工学習支援システム」をベースに各学科の必要事項を上乗せした形での統合する作業を進めている。それらの対応などにより、大学評価委員会の評価結果への対応が十分なされていると評価できる。

また、貴学部は2019年度に大規模なカリキュラムの改定を行っており、今後の検証が期待される。

## II 自己点検・評価

## 1 教育課程・学習成果

## 【2020年5月時点の点検・評価】

## (1) 点検・評価項目における現状

1.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。

①学生の能力育成のため、教育課程の編成・実施方針に基づいた教育課程・教育内容が適切に提供されていますか。

S A B

※教育課程の編成・実施方針との整合性の観点から、学生に提供されている教育課程・教育内容の概要を記入。

カリキュラムポリシーとして、3学科共通で外国語科目、基盤科目、専門科目に区分される科目群について、文理融合、基礎的科目と専門教育の連携、実務と結びついた演習・スタジオ教育の充実、そして多分野の先端技術に対応するための学部共通科目の設置などを掲げ、各学科専門性に応じたカリキュラムツリーを作成し、学生に示している。

・建築学科では日本技術者教育認定機構 (JABEE) より、学士課程と学士修士課程の2つの教育プログラムの同時認定を取得。この認定により UNESCO-UIA (国際建築家連合) 提唱の建築教育憲章に基づく国際的な教育プログラムとの同等性が保証された。

・都市環境デザイン工学科の教育プログラムは、工学部時代の2004年より日本技術者教育認定機構 (JABEE) に認定されており、国際社会が求める技術者人材を排出する教育内容となっている。

・システムデザイン学科では、基礎から専門までを段階的に学習できるよう教育課程を編成し、これらの考え方や科目の構成はカリキュラムツリーやカリキュラムマップと共に履修の手引きに詳しく説明されている。

【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

<p>・2019年度入学生からのカリキュラム改定に合わせ、各学科とも専門科目系に応じたカリキュラムツリーを充実・改定し、履修の手引きに加え学部のHPに掲載した。</p>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※カリキュラムツリー、カリキュラムマップの公開ホームページURLや掲載冊子名称等</p> <p>・(2019年度以降入学生用) デザイン工学部生のための履修の手引き</p> <p>・デザイン工学部HP <a href="https://www.hosei.ac.jp/edn/shokai/map_tree">https://www.hosei.ac.jp/edn/shokai/map_tree</a></p>	
②学生の能力育成の観点からカリキュラムの順次性・体系性を確保していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※カリキュラム上、どのように学生の順次的・体系的な履修（個々の授業科目の内容・方法、授業科目の位置づけ（必修・選択等）含む）への配慮が行われているか。また、教養教育と専門科目の適切な配置が行われているか、概要を記入。</p> <p>・外国語、基盤科目（総合系、人文社会系、理工系）、専門科目（導入科目、基礎科目、展開科目）の順に、学年進行とともに専門性が段階的に充実するカリキュラム体系をつくり、各年次の進級条件・卒業要件など履修のガイドラインを視覚的に表現している。</p> <p>・オリエンテーションの一環である導入ゼミナールでは、各学科が提供する教育カリキュラムを体系的に解説すると同時に、少人数グループ指導により専門教育の導入を行う。</p> <p>・年次時系列で見た専門科目間のつながりを履修モデルとして提示し、学生自らによって適切な履修順序を見出しやすい教育体系としている。</p>	
<p><b>【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】</b> ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>・カリキュラム改定時に学部の基盤教育委員会において慎重に議論を進め、科目の大区分を外国語、基盤、専門の3区分に簡素化するとともに、基盤科目の中区分（系）について総合系、人文社会系、理工系（、留学生）に分類しなおすことで、基盤科目の体系化とともにデザイン工学部学生に必要な基盤科目の充実を図った。なおこの基盤科目の整理見直しに伴い、対応する教員組織のあり方について引き続き議論を進めている。</p>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・(2019年度以降入学生用) デザイン工学部生のための履修の手引き</p> <p>・(2015～2018年度入学生用) デザイン工学部生のための履修の手引き</p>	
③幅広く深い教養および総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養する教育課程が編成されていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※カリキュラム上、どのように教養教育等が提供されているか概要を記入。</p> <p>・一般的な教養教育と専門教育に関する区分を改め、初年度から専門性を獲得し、最終年に至る過程で両分野を融合的に学習できるカリキュラム体系としている。教養教育（基盤科目）は文化歴史に対する包括的な理解を促すと共に、社会的責任を自覚した実践的な職業倫理を鍛えるものとして、具体的には以下のように実施している。</p> <p>ー外国語教育：英語教育はTOEICを熟達度指標とした実践型とし、外部の専門教育組織に委託。</p> <p>ー理工系基盤教育：専門教員が担当し、専門科目との一貫性を確保。</p> <p>ーその他の基盤教育：デザイン工学の実践的側面を補う観点から総合系、人文科目系の科目を取り揃え、学年を越え配当。</p>	
<p><b>【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】</b> ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>・学部を設置している英語教育委員会において外部委託の専門教育組織と検討の上、熟達度を計る指標をTOEFL-ITPからTOEIC-IPに変更することで、幅広い対応性を目指すこととした。</p> <p>・カリキュラム改定の中で基盤科目の体系を見直した。</p>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・(2019年度以降入学生用) デザイン工学部生のための履修の手引き</p> <p>・英語教育委員会資料並びに議事録</p>	
④初年次教育・高大接続への配慮は適切に行われていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※初年次教育・高大接続への配慮に関し、どのような教育内容が学生に提供されているか概要を記入。</p> <p>&lt;建築学科&gt;</p> <p>・1年次に「スプリングセミナー（導入ゼミナール）」を設け、初学者に必要な履修・学習方法の指導を行っている。また、数学・物理の知識が不十分な学生に対して補習授業を行っている。</p> <p>&lt;都市環境デザイン工学科&gt;</p> <p>・初年次導入科目として、「導入ゼミナール」を設けており、初学者のための履修指導および学習指導を行うとともに、コンピュータリテラシー等の基礎教育を行っている。また、高大接続への配慮として、1年生を対象とした力学系、数学系科目では高校数学の復習を適宜講義内容に取り入れており、物理系科目では習熟度別クラス編成を実施している。</p>	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

<システムデザイン学科> ・「導入ゼミナール」(1年次 AB 期)において、図書館ガイダンスやマナー講座を実施するとともに、フィールドワークやグループワーク形式の授業を取り入れている。また、物理の知識が不十分な新入生に対して物理補講を実施している。さらに「システムデザイン入門」(1年次 A 期)において、全専任教員からシステムデザインという学問分野を分野横断的に解説し、学生のそれぞれの立場から学科で学ぶ目標や意味を見つけ、キャリア形成の重要性などを自覚するようにしている。	
<b>【2019 年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】</b> ※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。 ・特になし	
<b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。 ・(2019 年度以降入学生用) デザイン工学部生のための履修の手引き <建築学科> ・授業記録 <都市環境デザイン工学科> ・授業記録 <システムデザイン学科> ・授業資料	
⑤学生の国際性を涵養するための教育内容は適切に提供されていますか。	S <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">A</span> B
※学生に提供されている国際性を涵養するための教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。 ・外国人等客員教員の制度を活用し、積極的に外国人教員を招聘している。また外国人非常勤講師による講演・講義を開催している。 <建築学科> ・2年次、外国人教員担当「Design Basics in English」「特別講義」を設置。 ・3年次、「デザインスタジオ 6」に外国人教員による英語での設計教育を導入。 <都市環境デザイン工学科> ・2年次に工業英語、3年次には工業英語実習において実践的英語を教育（工業英語では試験科目として工業英検 3 級、4 級を導入）。 <システムデザイン学科> ・2016 年度より南フィリピン大学で、個人レッスン 90 時間・グループレッスン 60 時間におよぶ「海外英語研修」(C 期、50 日間)を実施し、帰国後の TOEIC-IP スコアのアップにつながっている。	
<b>【2019 年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】</b> ※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。 ・学部に設置している英語教育委員会において外部委託の専門教育組織と検討の上、熟達度を計る指標を TOEFL-ITP から TOEIC-IP に変更することで、幅広い対応性を目指すこととした。	
<b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。 ・(2019 年度以降入学生用) デザイン工学部生のための履修の手引き ・英語教育委員会議事録 ・教授会議事録 <システムデザイン学科> ・授業資料	
⑥学生の社会的および職業的自立を図るために必要な能力を育成するキャリア教育は適切に提供されていますか。	S <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">A</span> B
※学生に提供されているキャリア教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。 <学部共通> ・少人数制「導入ゼミナール」の中で卒業後のキャリアパス紹介を実施。 ・3年次「インターンシップ」による実務体験。 ・実務で活躍する社会人による特別講演会の開催。 ・実社会の現状・課題等をキャッチアップするため、兼任講師による講義を多く導入している。 <建築学科> ・「スプリングセミナー」(1年次)では OB の協力も得てキャリアパス教育の一端を担う。「アーキテクト マインド」の冊	

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「S・A・B」は、前年度から「S: さらに改善した、A: 従来通り、B: 改善していない」を意味する。

<p>子を配布し、建築を学ぶことの意義を説いている。演習科目「デザインスタジオ1～2」(1年次)により建築デザインの基礎を、「構法スタジオ」(2年次)、「環境デザインスタジオ」(3年次)などで様々な分野の科目を通し、建築士資格指定科目と対応づけてキャリア教育を実践している。</p> <p>&lt;都市環境デザイン工学科&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>導入ゼミナール(1年次)におけるキャリアパスとロールモデルの説明、キャリア紹介ビデオの視聴、ゼミナール(3年次)におけるキャリア指導(キャリアセンターによる講演)、技術士説明会(本学科卒業生による講演)、同窓会(法士会)との懇談会(キャリアデザインセミナー)を実施している。</li> </ul> <p>&lt;システムデザイン学科&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「システムデザイン入門」(1年次)の一環として、キャリアセンターの協力を得てキャリアデザインに関する講義を実施するとともに、システムデザイン関連分野の実務者をゲスト講師に招いた講義を行っている。また3・4年次に「インターンシップ(SD)」を設け、積極的な取り組みを指導している。</li> </ul>		
<p><b>【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】</b> ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし</li> </ul>		
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>&lt;学部共通&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・(2019年度以降入学生用) デザイン工学部生のための履修の手引き</li> <li>・Web シラバス</li> </ul> <p>&lt;建築学科&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業記録</li> </ul> <p>&lt;都市環境デザイン工学科&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業記録</li> </ul> <p>&lt;システムデザイン学科&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業資料</li> </ul>		
<p>1.2 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。</p>		
①学生の履修指導を適切に行っていますか。	S	<input checked="" type="checkbox"/> A B
<p><b>【履修指導の体制および方法】</b> ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入学・進学時のガイダンス、導入ゼミナールにおける履修指導。</li> <li>・「デザイン工学部生のための履修の手引き」を活用した履修指導。</li> <li>・学習達成度自己評価システムを学生に提供している。学生自らが年間履修単位数を点検し、進級卒業要件、資格要件に必要な単位修得状況、GPAなどを確認し、達成度の状況に応じて担任教員が学生との面談に応ずる。</li> <li>・システムデザイン学科のSSIコースの学生については、一般の学生とカリキュラムが異なるため、履修登録時に別途時間割を確認しながら指導している。</li> </ul>		
<p><b>【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】</b> ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2019年度からの新カリキュラムの実施にあたり、履修の手引きの構成を見直し、学生の履修計画がよりスムーズになるよう工夫した。</li> </ul>		
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>&lt;学部共通&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・(2019年度以降入学生用) デザイン工学部生のための履修の手引き</li> <li>・(2018年度版) デザイン工学部生のための履修の手引き</li> <li>・ガイダンス日程表</li> </ul> <p>&lt;建築学科&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・IAEサーバー「CARESS」(履修支援システム)の利用案内</li> </ul> <p>&lt;都市環境デザイン工学科&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生から提出された「学習達成度自己確認システム」(教員による内容確認済み)の保管資料</li> </ul> <p>&lt;システムデザイン学科&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2016年度SSI履修要項・講義概要</li> </ul>		
②学生の学習指導を適切に行っていますか。	S	<input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※取り組み概要を記入。</p>		

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

<ul style="list-style-type: none"> <li>・シラバスに学習に必要な事項を明記。</li> <li>・1年次「導入ゼミナール」において学部課程における学習方法を指導。</li> <li>・入学・進学時のガイダンスにおいて、当該学年に特徴的な授業や履修上の注意点等を説明。</li> <li>・全教員がオフィスアワーを設定し学生の個別相談に対応。</li> <li>・エチュードを活用した指導。</li> <li>・各演習科目に配置したTAによる学習支援。</li> <li>・都市環境デザイン工学科では担任制により学習指導（成績不振学生との面談等）を実施。システムデザイン学科では学年毎に学年担当の教員を配置。</li> </ul>	
<p><b>【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】</b> ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学科ごとに行っていた成績不振学生指導について、実施記録を学部で集約し、確実な実施と記録保存を図った。</li> </ul>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・(2019年度以降入学生用) デザイン工学部生のための履修の手引き</li> <li>・成績不振学生指導記録</li> <li>・Web シラバス</li> </ul>	
<p>③学生の学習時間（予習・復習）を確保するための方策を行なっていますか。</p>	<p>S <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">A</span> B</p>
<p>※取り組み概要を記入。</p>	
<p>&lt;学部共通&gt;</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間履修制限49単位を設け、学習時間を確保しやすい仕組みとしている。授業時間外に教室を開放して学習場所を確保するよう努めている。</li> </ul>	
<p>&lt;建築学科&gt;</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学科内のIAE（Integrated Archive Environment）サーバーにより授業成果物を記録し、予習・復習素材として公開。同サーバーのRFC（Request For Comments）機能により、双方向性の自習が可能。</li> </ul>	
<p>&lt;都市環境デザイン工学科&gt;</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・シラバスや授業計画を参考にし、事前に学習すべき内容を学生へ周知。講義では適宜、宿題を課して復習・自習の動機を与えている。実験・実習・演習ではレポート作成によって復習を徹底する授業運営としている。4年生には卒業研究実施記録の作成を指導し、研究内容を日常的に記録・報告させて学生の自己管理を基本とする教育指導体制としている。</li> </ul>	
<p>&lt;システムデザイン学科&gt;</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・予習・復習のため、授業支援システムを活用した資料提供や学習指示を行っている。特に演習・実習系の授業では、授業時間外での作品制作やグループワークが行われるため、スタジオルームを授業時間外に開放したり、造形室やゼミ室を利用できるようにしたりするなどの配慮を行っている。</li> </ul>	
<p><b>【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】</b> ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし。</li> </ul>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・&lt;学部共通&gt;</li> <li>・Web シラバス</li> </ul>	
<p>&lt;建築&gt;</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・IAEサーバー「RFC」（Request for Comments）の利用案内</li> </ul>	
<p>&lt;都市&gt;</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業研究実施記録</li> <li>・各授業の講義記録</li> </ul>	
<p>④教育上の目的を達成するため、効果的な授業形態の導入に取り組んでいますか。</p>	<p>S <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">A</span> B</p>
<p><b>【具体的な科目名および授業形態・内容等】</b> ※箇条書きで記入（取組例：PBL、アクティブラーニング、オンデマンド授業等）。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・大型工作機械が利用できる造形製作室の設置、また3Dプリンタ、3Dスキャナ等が利用できるデジファブセンターの設置により、造形実習の幅、質を向上させている。</li> <li>・実社会の現状・課題等をキャッチアップするため、兼任講師による講義を多く導入している。</li> </ul>	
<p>&lt;建築学科&gt;</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「デザインスタジオ5～6」少人数制設計教育（Hosei Active Learning—HALスタジオを活用したアクティブラーニング）</li> <li>・「フィールドワーク」グループワークにより街区や建物の調査を行い、図面・模型製作（PBL型フィールドワーク）</li> </ul>	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

<p>&lt;都市環境デザイン工学科&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「デザインスタジオ」基礎立体造形の訓練（アクティブラーニング）</li> <li>・「橋のデザイン」橋梁の計画と模型製作（アクティブラーニング）</li> <li>・「鋼構造デザイン実習」鋼構造の計画と模型製作（アクティブラーニング）</li> <li>・「RC構造デザイン実習」配筋模型の製作（グループワークによるアクティブラーニング）</li> <li>・「デザインスタジオ2」対象地区に対する現地調査・課題抽出に基づく改善策の図面化と模型製作（PBL型フィールドワーク）</li> </ul> <p>&lt;システムデザイン学科&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「海外英語研修」（2年次C期）国際性を涵養するための英語によるコミュニケーション能力向上（個人授業を含む）</li> <li>・「ゼミナール1」（3年次AB期）全学生による複数のプレゼミの受講（多分野融合研究の基礎構築）</li> <li>・「プロジェクト実習・制作2」（3年次CD期）製品企画、設計、製造、流通に至る「ものづくり」の過程を総合的・横断的に実習（多分野融合研究の基礎構築）</li> <li>・「応用プロジェクト1・2」（4年次）本格的な製品企画と、その具現化（PBL型科目）および作品の学外コンペティションへの積極的な応募を奨励。</li> </ul>	
<p><b>【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】</b> ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・造形製作室の大規模な改修を行い、各種大型工作機械を設置した。デジファブセンターとして、3Dプリンタ、3Dスキャナ等の使用環境を整えた。これらを適切に運用管理するため、造形製作室運営委員会を設置し、利用調整を図るとともに、定期的にEAを常駐させることで安全管理に努めている。</li> </ul>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Web シラバス</li> <li>・造形製作室運営委員会議事録</li> <li>・「海外英語研修」資料</li> </ul>	
⑤それぞれの授業形態（講義、語学、演習・実験等）に即して、1授業あたりの学生数が配慮されていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※どのような配慮が行われているかを記入。</p> <p>・全学科で実施している「導入ゼミナール」（1年春学期）では、全専任教員が担当することで少人数の新入生とのコミュニケーションを図り、専門教育への円滑な導入を図っている。建築学科では学生個別の指導が必要な「デザインスタジオ」等のデザイン系演習科目について、学年を4～6クラスに分割して少人数授業を実施している。都市環境デザイン工学科では、数学・物理等の基礎的科目および「RC構造デザイン」「鋼構造デザイン」などの講義科目、「工学実験1」などの実験科目、「測量実習」「デザインスタジオ2」などの実習科目において2クラスに分割して少人数での学習指導を実施している。システムデザイン学科では「図形科学基礎演習」「プログラミング基礎演習」「デジタルデザイン演習」「3Dモデリング（クリエーション系/テクノロジー系）」などの演習科目において2クラスに分割して少人数での指導を実施している。</p>	
<p><b>【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】</b> ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし。</li> </ul>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・（2019年度以降入学生用）デザイン工学部生のための履修の手引き</li> </ul>	
1.3 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	
①成績評価と単位認定の適切性を確認していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p><b>【確認体制および方法】</b> ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・成績評価に対する疑義については、成績調査により対応。</li> <li>・必要に応じて解答用紙を開示し、採点理由を説明。</li> <li>・ガイダンス時および、履修の手引きやシラバス上で成績評価方法と基準を学生へ明示し、JABEEプログラム責任者（建築、都市）を中心に成績評価・単位認定の妥当性を検証。都市環境デザイン工学科では全ての授業について「採点・評価結果報告書」を作成し、GPCAや習得率を確認している。</li> <li>・採点結果報告書（成績原簿）を作成・保管し、必要に応じて成績分布を確認するシステムを採用。</li> </ul> <p>グループワーク等、各人のグループ成果への貢献度の定量評価が難しい科目では、役割分担を明らかにするなどの対策を講じている。</p>	
<p><b>【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】</b> ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p>	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

<p>・特になし。</p> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・デザイン工学部生のための履修の手引き</li> <li>・Web シラバス</li> <li>・成績評価の調査について（掲示）</li> <li>・成績調査願</li> </ul>	
②厳格な成績評価を行うための方策を行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※取り組み概要を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・シラバスに明記された方法に整合する成績評価を行っている。出席管理システムに学科で統一した遅刻時間、欠席とする時間設定を設け、欠席回数も統一したルールで評価。成績評価項目（レポート、中間、期末試験など）での評価比率をシラバスに掲載し、成績を適正に評価している。</li> <li>・年度末等に開催される講師懇談会・授業打ち合わせ会等の場で、成績の厳正評価を兼任講師を含む全教員で共通認識とすることを徹底している。</li> </ul>	
<p><b>【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】</b> ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・都市環境デザイン工学科では、2018年度の日本技術者教育認定機構による中間審査時の指摘に対応して、達成度自己評価システムの提出を3年次ゼミナールの単位取得の条件とした明示した。</li> </ul>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>&lt;建築学科&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本技術者教育認定基準（2012年度～）、日本技術者教育認定基準共通基準（2012年度～）</li> </ul> <p>&lt;都市環境デザイン工学科&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本技術者教育認定基準（2012年度～）、日本技術者教育認定基準共通基準（2012年度～）</li> </ul> <p>&lt;システムデザイン学科&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Web シラバス</li> </ul>	
③学生の就職・進学状況を学部（学科）単位で把握していますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
<p>※データの把握主体・把握方法・データの種類等を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・就職担当教員を中心に求人や内定状況に関する就職活動情報を収集・管理し教室会議で報告</li> <li>・学科ごとに集計した進路情報をキャリアセンターに情報提供</li> </ul>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>&lt;学部共通&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・デザイン工学部パンフレット</li> </ul> <p>&lt;建築学科&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教室会議議事録</li> </ul> <p>&lt;都市環境デザイン工学科&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・就職担当教員による収集資料、キャリアセンターへの情報提供資料</li> </ul> <p>&lt;システムデザイン学科&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教室会議議事録</li> </ul>	
1.4 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	
①成績分布、進級などの状況を学部（学科）単位で把握していますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
<p>※データの把握主体・把握方法・データの種類等を記入。</p> <p>&lt;建築学科&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・GPCAの算出により授業ごとの成績分布を把握している。</li> <li>・成績原簿を作成・保管しており、教員ごとに必要に応じて成績分布の検証に供する。</li> <li>・4年次への進級にあたり進級要件を設けており、留級や要注意学生などの状況は教室会議で確認している。</li> </ul> <p>&lt;都市環境デザイン工学科&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・GPCAの算出により授業ごとの成績分布を把握している。</li> <li>・各年次への進級にあたり進級要件を設けており、春学期・秋学期終了時に成績不振者や留級者の状況を教室会議で確認、担任教員が個別面談により学習指導を行っている。</li> </ul> <p>&lt;システムデザイン学科&gt;</p>	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

<ul style="list-style-type: none"> <li>・GPCA の算出により授業ごとの成績分布を把握している。</li> <li>・留級や成績不振学生などの状況を教室会議で確認している。</li> </ul>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>&lt;建築学科&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教室会議議事録</li> </ul> <p>&lt;都市環境デザイン工学科&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教室会議議事録</li> </ul> <p>&lt;システムデザイン学科&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教室会議議事録</li> </ul>	
<p>②「学修成果の把握に関する方針（アセスメント・ポリシー）」に基づき、分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標の適切な設定または取り組みが行われていますか。</p>	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※取り組みの概要を記入。</p> <p>&lt;建築学科&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「デザインスタジオ」などの演習科目では、科目内でいくつかのステップに分けた小課題を設定し、順番に学習していくことで最終的な到達目標を明確化している。課題ごとの講評会は全員が参加することで、学生自身が振り返りを行い達成度を確認している。</li> </ul> <p>&lt;都市環境デザイン工学科&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学部共通の学習達成度評価システムに学科に必要な項目を追加した「達成度自己評価システム」としてのエクセル入力シートを年2回記入させ、学生自身に学習成果を客観的に認識させるといった取り組みを行っている。</li> </ul> <p>&lt;システムデザイン学科&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・奨学金やゼミ所属、就職、大学院進学などは GPA に基づき基準を設け順位付けを行い、評価している。応用プロジェクトや卒業研究・卒業制作等で具体化された作品は、積極的に学外コンペティションへ応募することを奨励し、毎年、いくつかの作品が賞を受賞している。</li> </ul>	
<p><b>【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】</b> ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし。</li> </ul>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教室会議議事録</li> </ul>	
<p>③「学修成果の把握に関する方針（アセスメント・ポリシー）」に基づき、具体的な学習成果を把握・評価するための方法を導入または取り組みが行われていますか。</p>	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※取り組みの概要を記入（取り組み例：アセスメント・テスト、ルーブリックを活用した測定、学修成果の測定を目的とした学生調査、卒業生・就職先への意見聴取、習熟度達成テストや大学評価室卒業生アンケートの活用等）。</p> <p>&lt;建築学科&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習・教育目標に関する学習達成度自己評価システムを構築・提供し、学生自身が学期ごとに自己確認できるようにしている。「デザインスタジオ」などの演習科目で最終講評会を開催し、教員が横断的に学習成果の達成度を確認している。</li> </ul> <p>&lt;都市環境デザイン工学科&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「達成度自己評価システム」を利用した学習達成度の確認作業によって学生自らが学修実績を振り返り、今後の履修に対する心構えを教員に報告している。各学生の担任教員は、その報告に基づいて学習・教育到達目標毎の達成度や学習効果を定量的に把握・確認している。</li> </ul> <p>&lt;システムデザイン学科&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・就職状況や学内外の各種コンペティションの受賞状況から判断している。2013年4月に学習達成度自己評価システムを導入し、2017年度4月からはデ工学学習支援システムに移行して同様に実施しており、学生の志望や志向、履修状況の履歴等を確認できるようになっている。</li> </ul>	
<p><b>【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】</b> ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし。</li> </ul>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>&lt;建築学科&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・IAE サーバー「CARESS」（履修支援システム）の利用案内</li> </ul> <p>&lt;都市環境デザイン工学科&gt;</p>	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

・学生から提出された「学習達成度自己確認システム」(教員による内容確認済み)の保管資料	
④学習成果を可視化していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※取り組みの概要を記入。取り組み例：専門演習における論文集や報告書の作成、統一テストの実施、学生ポートフォリオ等。</p> <p>&lt;学部共通&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市ヶ谷田町校舎2階のエントランス脇に学生の作品等の展示スペースを設け、学習成果を可視化している。</li> </ul> <p>&lt;建築学科&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・設計作品、卒業論文、卒業設計については、作品集、論文集を刊行。</li> <li>・IAEサーバーのRFC機能により、優秀作品の公開と学生による研究成果や作品の発信を図っている。</li> <li>・IAEサーバーを利用して学生がポートフォリオ(e-Portfolio)を作成可能。</li> <li>・演習系の科目では、学期ごとに優秀作品を学内に展示。</li> </ul> <p>&lt;都市環境デザイン工学科&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・デザインスタジオや景観デザインに関する学生コンペでの優秀作品を展示するとともに、業績をパンフレット・教室ホームページ・教室棟回廊に公開している。</li> <li>・卒業論文概要を収録したCD-ROMを作成し、次年度の在学生に配布している。また、学科オリジナルサイトにおいて卒業論文概要を学内に開示している。</li> <li>・学会などにおける学生の受賞をホームページに報告している。</li> <li>・達成度自己評価システムによって学習・教育到達目標毎の達成度、GPA、進級・卒業・技術者資格取得に要する取得単位充足状況を定量的に評価している。</li> </ul> <p>&lt;システムデザイン学科&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学内外の各種コンペティションの受賞状況をホームページで公開している。</li> </ul> <p><b>【2019年に変更や改善された事項及び新規取り組み事項等】</b> ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・従来待合スペースであったエントランス脇のスペースを学生の展示スペースとして整備した。</li> </ul> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>&lt;建築学科&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・IAEサーバー「RFC」(Request for Comments)の利用案内</li> <li>・『HOSEI STUDIOWORKS』(作品集)</li> <li>・『建築研究』(論文集)</li> </ul> <p>&lt;都市環境デザイン工学科&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市ヶ谷田町校舎内の回廊展示資料</li> <li>・卒業論文・修士論文概要CD-ROM</li> <li>・都市環境デザイン工学科オリジナルサイト</li> <li>・学生から提出された「学習達成度自己確認システム」(教員による内容確認済み)の保管資料</li> </ul> <p>&lt;システムデザイン学科&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・法政大学デザイン工学部ホームページ</li> </ul>	
1.5 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みも行っているか。	
①学習成果を定期的に検証し、その結果をもとに教育課程およびその内容、方法の改善に向けた取り組みを行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※検証体制および方法、改善・向上に向けた取り組みの概要を記入。</p> <p>&lt;建築学科&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・JABEE(日本技術者教育認定機構)のプログラム認定審査年度に、成果の公開展示を兼ねた教育内容の振り返りを行っている。</li> <li>・カリキュラムの見直し期には、学科内委員会を発足させてこれにあたっている。</li> </ul> <p>&lt;都市環境デザイン工学科&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・JABEE(日本技術者教育認定機構)による認証評価を受審、認定を受け、評価結果をもとに教育全般の改善を行っている。</li> <li>・毎学期あるいは毎年実施される授業改善アンケートや卒業生対象のアンケート調査を実施してその結果を分析し、学生・卒業生の意見に基づく教育効果を多角的に計測して教育改善を図っている。</li> <li>・同窓会(法土会)主催の社会工学セミナーや同窓会(法土会)との意見交換会を実施することにより、自立力ある技術</li> </ul>	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

<p>者人材を輩出するための教育・研究のあり方を議論している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3年に一度を目処に外部有識者数名からなる「教育評議員会」を開催し、教育課程およびその内容についての評価を受けている。</li> </ul> <p>&lt;システムデザイン学科&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教室会議や年度末の授業打合せ会にて学生の履修情報を教員間で交換し、授業内容・方法の見直しの機会としている。</li> </ul> <p><b>【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】</b> ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし。</li> </ul>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>&lt;学部共通&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・デザイン工学部生のための履修の手引き</li> </ul> <p>&lt;建築学科&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・建築 JABEE 運営委員会議事録</li> <li>・教室会議議事録</li> </ul> <p>&lt;都市環境デザイン工学科&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教室会議議事録（法土会との意見交換会議事録を収録）</li> <li>・拡大教室会議の配布資料・議事録（WG 活動報告を収録）</li> <li>・法土会会報（社会工学セミナー実施報告を収録）</li> <li>・教育評議員会の配布資料・議事録</li> </ul> <p>&lt;システムデザイン学科&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教室会議議事録</li> <li>・授業打合せ会案内</li> </ul>	
②学生による授業改善アンケート結果を組織的に利用していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※利用方法を記入。</p> <p>&lt;建築学科&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業改善アンケートからの「気づき」をシラバスに明記し学科内で共有。</li> </ul> <p>&lt;都市環境デザイン工学科&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業改善アンケート結果に基づき各科目担当教員が全ての授業について「次期授業改善計画」を作成し、授業の改善に反映させている。</li> <li>・学科独自の授業改善アンケート結果に基づいて教員に優秀授業賞を授与し、教育業務へのインセンティブを与えて教育を継続的に改善する仕組みとしている。</li> <li>・授業評価の高い科目とその担当教員の一覧を学内掲示板と授業支援システム（エチュード）に開示し、全教職員および学生に周知することで、継続的な授業改善の仕組みを作っている。</li> </ul> <p>&lt;システムデザイン学科&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業改善アンケート結果の内容を各教員が照査し、特徴的事象については、教室会議や毎年度末に実施している授業打合せ会において情報交換を行い、授業内容の見直しに活用している。</li> </ul> <p><b>【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】</b> ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし。</li> </ul>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>&lt;建築学科&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Web シラバス</li> </ul> <p>&lt;都市環境デザイン工学科&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教室会議・拡大教室会議議事録</li> <li>・エチュード「お知らせ」</li> </ul> <p>&lt;システムデザイン学科&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業打合せ会案内</li> </ul>	

## (2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
----	---------

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

<ul style="list-style-type: none"> <li>各学科に設置されている新入生向け「導入ゼミナール」により、初年時教育からカリキュラムの順次性・体系性を学生に周知するとともに、クラス分けによる小人数対応できめ細かい指導を行っている。</li> <li>各学科から選出された委員からなる質保証委員会を年4回開催し、教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針の適切性、シラバスを学科相互に検証している。</li> <li>建築学科と都市環境デザイン工学科はJABEE（日本技術者教育認定機構）による認証評価を受審、認定を受け、評価結果をもとに教育全般の改善を行っている。これに関連して学部共通の学習達成度自己評価システムを整備し、学生に自己の学習達成度を客観的に評価させている。</li> <li>全学科において、教員と外部の有識者または兼任講師からなる外部評価委員会等を設置、点検・評価の実施を行い、教育内容・システムの改善を進めている。</li> <li>国際性を涵養するための英語によるコミュニケーション能力向上を目的として、英語教育委員会を設置して英語教育のあり方を継続的に議論している。また海外英語研修システムを導入、実施している。外国人非常勤講師による講演・講義を開催している。</li> <li>教養教育と専門教育のあり方について基盤教育委員会を設置し、基盤科目の構成あり方について継続的に議論、改善を行っている。これに関し、新カリキュラムで改定した基盤科目群に対応した教員体制の充実が課題となっている。</li> </ul>	1.1① 1.1② 1.1③ 1.1④ 1.1⑤ 1.2② 1.3② 1.4② 1.5①
---	--

## (3) 問題点

内容	点検・評価項目
<ul style="list-style-type: none"> <li>造形製作室やデジファブセンターの設置など、既存施設の中での工夫は続けてきているものの、現在の施設はデザイン工学部特有の演習科目など新しい形態の授業に対応しきれないなど施設上の課題があり、PBL やアクティブラーニングの推進のためにも早急に改善する必要がある。</li> <li>市ヶ谷田町校舎入り口にディスプレイを用いた空き教室掲示などの工夫を実施し、空き教室の有効活用に努力しているが、なおスペースが足りずに1階入口ホールなどの空きスペースで学生が作業を行わざるを得ない状況である。</li> <li>スペース及び施設の拡充について継続的に検討していく必要がある。</li> <li>2019 年度末段階で、新型コロナウイルス感染に対応する非対面型授業が今後求められていくことを踏まえ、その効果的実施について早急に方法、内容を詰める必要がある。</li> </ul>	

## 【この基準の大学評価】

デザイン工学部では、2019 年度入学生からのカリキュラム改定に合わせ、各学科とも専門科目系に応じたカリキュラムツリーを充実・改定し、履修の手引きに加え学部の HP に掲載しており、適切である。初年次教育については、新入生向け「導入ゼミナール」によりカリキュラムの順次性・体系性を学生に周知するとともに少人数対応できめ細かい指導が行われている。また、2019 年度からの新カリキュラムの実施にあたり、履修の手引きの構成を見直し、学生の履修計画がよりスムーズになるための工夫を行い、評価できる。造形製作室の大規模な改修を行い、各種大型工作機械が設置され、デジファブセンターについては、3D プリンタ・3D スキャナ等の使用環境が整えられ、評価できる。シラバスに明記された方法に整合する成績評価が行われており、学科で統一した遅刻時間と欠席時間を設定するための項目が出席管理システムに設けられ、欠席回数も統一したルールで評価されており、適切である。課題ごとの講評会に学生全員が参加することで学生自身が振り返りを行って達成度を確認できる仕組みを導入している。また、学生自身が学習成果を客観的に認識できる仕組みも導入しており、学生の学習成果を可視化している。

教育課程およびその内容、方法の適切性については、質保証委員会を年4回開催し、教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針の適切性、シラバスを学科相互に検証している。

## 2 教員・教員組織

## 【2020 年 5 月時点の点検・評価】

2.1 教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。	
①学部（学科）内の FD 活動は適切に行なわれていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

**【FD 活動を行うための体制】** ※箇条書きで記入。

## &lt;学部共通&gt;

- ・毎年度末に講師懇談会を開催し、兼任教員と教育技術嘱託を交え教育内容・方法等の改善を検討
- ・学生による授業評価アンケートの実施

## &lt;建築学科&gt;

- ・JABEE（日本技術者教育認定機構）研修会への代表教員の参加と研修報告

## &lt;都市環境デザイン工学科&gt;

- ・JABEE（日本技術者教育認定機構）研修会への代表教員の参加と研修報告
- ・学内外で実施される FD 推進活動への参加と日常的実践ならびに FD 活動報告書の提出
- ・授業のビデオ画像収録による自己点検と相互視聴、「学生による授業評価アンケート」結果に基づく「次期授業改善計画」の策定とその実現など授業改善を継続的に図る仕組みの整備

## &lt;システムデザイン学科&gt;

- ・教室会議において、授業の実施状況や内容、スケジュール管理、課題等に関して議論

**【2019 年度の FD 活動の実績（開催日、場所、テーマ、内容（概要）、参加人数等）】** ※箇条書きで記入。

## &lt;建築学科&gt;

## 1) 2019JABEE 建築分野受審・審査セミナー 8/20 建築会館

（内容）認定制度の考え方と基本方針／認定基準の解説／審査の手引き／プログラム点検書・審査報告書／一斉審査方式の概要／予備審査と暫定認定の概要／質疑応答

## 2) JABEE 建築分野受審・審査セミナー

（内容）必要に応じて e learning を使用する。

## 3) 継続審査受審 10/20-10/22

（内容）エンジニアリング系学士の JABEE 受審／建築系学士修士の JABEE 受審

## &lt;都市環境デザイン工学科&gt;

## 1) 授業のビデオ撮影（春夏秋冬学期中各 1 回、専任教員が担当する専門科目の講義・実習・演習・実験の一部）

## 2) 次期授業改善計画の作成（毎学全科目）

## 3) 2019 年度第 1 回 JABEE 審査員研修会への参加，専任教員 1 名，2019 年 7 月 13 日～14 日

## 4) 第 25 回社会工学セミナーの聴講，法政大学市ヶ谷田町校舎，専任教員 1 名，2019 年 7 月 12 日

## 5) 建設業で活躍する OB の講演聴講，意見交換，法政大学小金井キャンパス，専任教員 1 名，2019 年 11 月 28 日

## 6) 教職員セミナー（オンデマンドコンテンツ）の受講，法政大学市ヶ谷田町校舎，専任教員 2 名，2020 年 2 月 20 日

## 7) 2019 年度 FD 教員セミナー，法政大学ボアソナード・タワー，専任教員 1 名，2019 年 9 月 28 日

## 8) 論理的日本語記述のための参考書確認，法政大学市ヶ谷田町校舎，専任教員 1 名，2020 年 2 月 25 日

## 9) Workshop への参加，ETH Zurich，専任教員 1 名，2019 年 9 月 19 日

## 10) 第 25 回大学評価室セミナーへの参加，法政大学ボアソナード・タワー，専任教員 1 名，2020 年 1 月 23 日

## &lt;システムデザイン学科&gt;

## 1) プロジェクト実習・制作 2 最終発表における外部審査員の招聘

（2020 年 1 月 15 日、企業および付属高校招聘数:15 名）

- ・授業内容、取り組みに関する教員との意見交換会
- ・学生作品へのフィードバック・コメント
- ・審査員賞の設置・授与

**【2019 年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】** ※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。

- ・特になし。

**【根拠資料】** ※ない場合は「特になし」と記入。

## &lt;建築学科&gt;

- ・教室会議議事録

## &lt;都市環境デザイン工学科&gt;

- ・教室会議議事録
- ・拡大教室会議の配布資料・議事録（FD 活動報告書、WG 活動報告を収録）
- ・各授業担当者が作成した授業改善計画書（次期授業改善計画を収録）

## &lt;システムデザイン学科&gt;

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「S・A・B」は、前年度から「S: さらに改善した、A: 従来通り、B: 改善していない」を意味する。

・ 教室会議議事録	
②研究活動や社会貢献等の諸活動の活性化や資質向上を図るための方策を講じていますか。	S <b>A</b> B
<p>※取り組みの概要を記入。</p> <p>&lt;デザイン工学部&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>当学部の教員が主体となって活動している「エコ地域デザイン研究所センター」及び「江戸東京研究センター」と協力して、公開講座などを実施している。また、多くの教員が学会などに協力して、シンポジウムなどの講師を務めている。</li> </ul> <p>&lt;建築学科&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>公開講座を実施している。</li> <li>例年5月下旬の土曜日に、学科同窓会と連携して、専任教員全員、1年生全員、その他の学年の学生有志、卒業生が、「ウォークラリー」と称する街歩きを行っている。「ウォークラリー」では、特徴ある建築や街の姿に触れることにより、学習の動機付けを図っている。</li> </ul> <p>&lt;都市環境デザイン工学科&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>卒業生組織と連携して、教員及び学外有識者の教育研究成果に基づく「社会工学セミナー」を毎年実施している。</li> <li>学外組織と共同研究、受託・寄付研究等を行うことにより教育研究の推進を図るとともに社会への研究成果の還元を行っている。</li> <li>多くの教員が公共団体が設置する委員会等に招聘され、行政施策の策定等に参加している。</li> </ul> <p>&lt;システムデザイン学科&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>公開講演会を実施している。</li> <li>学外組織との共同研究・受託研究・寄付研究等を行うことにより、産官学連携による教育研究の推進を行っている。また積極的に学外コンペ等に作品や成果を応募するようにしている。</li> </ul> <p><b>【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】</b> ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>特になし。</li> </ul> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>&lt;デザイン工学部&gt;</li> <li>「エコ地域デザイン研究所センター」HP、年次報告書</li> </ul> <p>&lt;建築学科&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「国際ワークショップ」のポスター</li> <li>「ウォークラリー」ポスター</li> </ul> <p>&lt;都市環境デザイン工学科&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「社会工学セミナー」パンフレット</li> <li>「外濠市民塾」パンフレット</li> <li>デザイン工学部教授会議事録</li> </ul>	

## (2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
特になし	

## (3) 問題点

内容	点検・評価項目
特になし	

**【この基準の大学評価】**

デザイン工学部では、兼任教員と教育技術嘱託を交えて教育内容・方法等の改善を積極的に検討しており、評価できる。JABEE 研修会への代表教員の参加と研修報告、授業のビデオ画像収録による自己点検と相互視聴、外部審査員の招聘などにも取り組んでおり、評価できる。

デザイン工学部の教員が主体となって活動している「エコ地域デザイン研究所センター」、および「江戸東京研究センター」と協力して、公開講座なども実施している。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

## III 2019 年度中期目標・年度目標達成状況報告書

No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】	
1	中期目標	1) カリキュラムポリシーの見直しを行い、開講科目の体系を再構築する 2) 高学年における英語教育のあり方について検討する	
	年度目標	1) 2018 年度に大幅改編した基盤教育の実効性について継続的に検証し改善に結びつけるための所管委員会を整備する 2a) 中期の海外英語研修日程に加え、サマーセッションやオータムセッションを利用した短期研修の可能性を検討する 2b) 一部の専門科目での英語利用について検討を開始する	
	達成指標	1) 基盤教育に関する所管委員会の立ち上げ 2a) 検討結果の共有（教授会） 2b) 英語利用の方法と対象科目について立案	
		教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	A
	理由	1) 基盤教育を所管する組織として既設の英語教育委員会に加え基盤教育委員会を設置した。基盤教育の具体的な点検としては、英語外部委託業者の契約更新に伴い、模擬授業により委託業者の評価を行った。 2a) 短期研修を含む教育交流を行う上で海外大学（台湾）との協定を検討したが、協定には至らなかった。 2b) 専門科目 2 科目において英語資料を活用するなどの試行を行った。またこれらの先行的取り組みを教授会で共有した。	
	改善策	1) 全学的に「法政スタンダード」の名の下、基盤教育の在り方について議論が開始された。デザイン工学部でも、この視点から基盤教育を整理する必要がある。 2a) 海外研修については、渡航資金と安全な受入れ先の選定が課題となるが、カリキュラム改訂年である 2023 年に向けて基盤教育委員会での検討を継続する。 2b) 他の専門科目での取り組みを促す。	
		質保証委員会による点検・評価	
	所見	1) 1 年生の TOEIC 点数が 1 年間で大幅に上昇しており、英語委託業者と英語教育委員会の連携が機能していると考えられる。 基盤教育全体の検証については、2019 年度のカリキュラム改訂から間もないため今年度は具体的な成果がない点は致し方ない。次年度以降の課題として取り組まれない。 2) デザイン工学部の英語教育は 1 年次のみであるため、高学年の専門性の高い英語力の向上に着手した点は評価できる。	
	改善のための提言	1) 基盤教育委員会には単なるカリキュラムの検証だけではなく、基盤教育の方針検討を求めたい。 2) 英語教育委員会において、年次を跨いだ英語教育の在り方についての検討を求めたい。	
年度末報告			
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】	
2	中期目標	1) 効果的な実習のための造形製作室の再整備を検討する 2) 自動集計システム「授業支援ボックス」と授業支援システムを活用した授業方法の検討	
	年度目標	1) 特別事業（備品等購入）による造形製作室の整備を完了し、利用規則を整備する 2) 引き続き「授業支援ボックス」を利用し、活用上の課題を把握する	
	達成指標	1) 造形製作室の供用を開始するとともに、利用規則を随時改善する 2) 「授業支援ボックス」の利用状況について共有（教授会）	
		教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	A
理由	1) 造形製作室整備の第一段階が完了し、利用規定に則った運用が開始された。造形製作室運営委員会および管理者が常時利用実態を把握し、円滑に運営が行われている。 2) 「授業支援ボックス」は、市谷田町校舎に設置されておらず、専用用紙が必要な点が普及		

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「S・A・B」は、前年度から「S: さらに改善した、A: 従来通り、B: 改善していない」を意味する。

			を妨げる要因の一つと考えられ、増加が認められない。	
	改善策		1) 毎年の安全講習の方法について検討する必要がある。 2) 「授業支援ボックス」については、普及が見込めないことから点検対象から外すものとする。	
		質保証委員会による点検・評価		
	所見		1) 造形製作室の装備と安全性が向上した。授業での本格活用は次年度からであり、その状況を注視したい。 2) 昨今は書類をデータ化する様々な手段が用意されているため、「授業支援ボックス」に拘る必要は認められない。	
	改善のための提言		1) 安全講習には、廃棄物処理の方法を含むように求めたい。	
No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】		
3	中期目標	稼働中の学習達成度評価システムの見直しを行い、より使いやすいシステムの再構築		
	年度目標	システムの継続的な見直しを行う所管委員会を整備し、運用状況の検証を行う		
	達成指標	所管委員会により、システムの運用状況を把握し必要に応じて修正する		
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価		
		自己評価	S	
		理由	円滑に運営されていることを、質保証委員会において確認した。大学評価インタビューで求められた学部を超えた汎用化を念頭に、自己点検懇談会（発表型）でシステムファイルを配布し解説した。	
		改善策	-	
		質保証委員会による点検・評価		
		所見	システムの運用状況が円滑であることを確認した。	
		改善のための提言	-	
No	評価基準	学生の受け入れ		
4	中期目標	多様な入試経路で受け入れた学生の学びに対する実態を把握し、入試経路の妥当性を検証する		
	年度目標	学生の学びに対する実態把握に必要な入学前後の教育の在り方については、継続審議となっており、学生の負担や予算への影響が大きいため早期に結論を得るように検討を進める		
	達成指標	次年度入学者に対する入学前後教育方針の確定		
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価		
		自己評価	S	
		理由	過密気味であった入学前後教育を検証し、効果が疑われた取り組み内容（具体的にはロジカルライティング）を廃止した。 リメディアル教育を対象学生以外の希望者にも公開し、自主的な基礎学力向上の機会として位置づけた。	
		改善策	-	
		質保証委員会による点検・評価		
		所見	ロジカルライティングについては、これまでも課題や添削の内容に批判があり、廃止は妥当。	
		改善のための提言	学生の文章力の向上について、より効果的な方法の検討を求めたい。	
No	評価基準	教員・教員組織		
5	中期目標	基盤教育の新しいあり方に沿った専任教員の配置と、適切な年齢構成への移行		
	年度目標	別2教員9名（5名の凍結と4名の返還）の内、4名の返還が解除されたため、教員の配置と年齢構成に配慮した人事計画の見直しを進める		
	達成指標	学科毎の人事計画の立案と共有（教授会）		

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	B
	理由	学科毎の採用人事計画に従って、建築1名、都市1名、SD1名の教員を新たに採用し、2020年度（一部の教員は2019年度後半）より学部教育に参画することが承認された。他学科に先立って別2教員の採用がはじまる建築学科において、別2教員採用年次が計画されたが、基盤教育の中身については継続審議となった。
	改善策	2023年のカリキュラム改訂に向けて、学部全体で「法政スタンダード」「文理融合」の視点から基盤教育の構造を再構築した上で、求めるべき別2教員像を定める必要がある。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	専門教員の採用については学科毎の将来構想を反映した内容となっている。別2教員については、「法政スタンダード」「文理融合」など新しい全学的取り組みが開始されたばかりであり、本年度は全学的動向の情報収集に時間が割かれたものと考えられる。
	改善のための提言	別2教員の在り方については、拙速を避け、学部全体での検討を継続されたい。
No	評価基準	学生支援
6	中期目標	学生への掲示情報量が増加傾向にあるため、校舎内での情報伝達方法の適正化を図る
	年度目標	現状では分散されている掲示の一元化およびデジタルサイネージの導入を検討する
	達成指標	校舎内の掲示計画の立案
	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	掲示スペースの集約と、学生の作品展示スペースの増設を同時に計画し実施した。デジタルサイネージについては、次年度からの全学WEB掲示板の導入により検討を完了したとする。
	改善策	ポスターの掲示基準が曖昧であるため、これを整理する必要がある。
質保証委員会による点検・評価		
所見	掲示スペースと展示スペースの配置が同時に見直されたことで、校舎内動線の安全性も向上した。	
改善のための提言	ポスターの掲示は、校舎内外の美観に影響する点について留意を求めたい。	
No	評価基準	社会連携・社会貢献
7	中期目標	オープンキャンパス時に実施しているデザインスクールなどの公開講座を見直し、受験生だけでなく、社会貢献を意識した一般人を対象とする講座への展開を検討する
	年度目標	受験生に限定しない内容とするために、3学科毎に行われていた企画運営に代え、デザイン工学部として毎年度のテーマを定めたデザインスクールを開催する
	達成指標	アンケートを活用するなどしたデザインスクールの評価を次年度の内容に反映する
	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	定員を超えた参加応募があり、アンケート結果からも、今年度から導入した学部単位でのオープンキャンパスは好評であった。
	改善策	—
質保証委員会による点検・評価		
所見	デザインスクールでの制作課題を、受験生に限定しない視点から設定したことの効果と考えられ、継続を求めたい。	
改善のための提言	—	
【重点目標】		
別2教員4名の凍結解除を受け、基盤科目と専門科目の相互性強化を目標とした適正な教員配置を計画する		

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

## 【年度目標達成状況総括】

教育環境およびツールの改善は着実に進んでおり、年度目標は概ね達成された。

学部基盤教育（外国語教育を含む）については、全学的な検討が開始された「法政スタンダード」や「文理融合プログラム」など新しい基盤教育の在り方との整合を図るかたちで、抜本的な見直しの時期にあると考える。

## 【2019年度目標の達成状況に関する大学評価】

デザイン工学部では、1年生の TOEIC 点数が1年間で大幅に上昇しており、英語委託業者と英語教育委員会の連携が機能していると考えられ、評価できる。高学年の専門性の高い英語力の向上に着手したことについて、今後の成果が期待される。造形製作室の装備と安全性が向上し、今後の活用を期待したい。専門教員の採用については、学科毎の将来構想を反映した内容となっており、適切である。

## IV 2020年度中期目標・年度目標

No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
1	中期目標	1) カリキュラムポリシーの見直しを行い、開講科目の体系を再構築する 2) 高学年における英語教育のあり方について検討する
	年度目標	1) 基盤教育委員会において学部基盤教育の構成を立案する 2) 英語授業は1年生科目となっているが、その妥当性について議論し、高学年への配置を検討する
	達成指標	1) デザイン工学部基盤教育方針を策定する 2) 英語教育に関し、2023年度のカリキュラム改訂について提案する
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
2	中期目標	1) 造形製作教育の充実・拡張について検討する 2) オンライン授業の定着について将来構想の一環として検討する
	年度目標	1) 造形製作室の充実に加え校外実習の可能性を検討する 2) オンライン授業の利点と課題の整理を開始する
	達成指標	1) 校外実習先について調査を実施する 2) オンライン教育を検討する所管委員会を設置し、カリキュラムや時間割のあり方について提案する
No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
3	中期目標	オンライン授業が定着した場合の学習成果の評価方法を検討する
	年度目標	オンライン授業の試験方法についての検討
	達成指標	オンライン教育を検討する所管委員会を設置し、オンライン授業の試験方法について提案する
No	評価基準	学生の受け入れ
4	中期目標	多様な入試経路で受け入れた学生の学びに対する実態を把握し、入試経路の妥当性を検証する
	年度目標	留学生の出身国の偏りを是正し、文化圏の多様化により学部教育の国際化を図るため、入試制度を検討する
	達成指標	日本語学校指定校を選定し、適切な推薦基準を定める
No	評価基準	教員・教員組織
5	中期目標	基盤教育の新しいあり方に沿った専任教員の配置と、適切な年齢構成への移行
	年度目標	基盤教育委員会による教員人事計画と並行して、教員のダイバーシティ推進を検討する
	達成指標	ダイバーシティ推進の一環として、学部会議体の開催方法を見直すことにより、時短など効率化を図る
No	評価基準	学生支援
6	中期目標	学生への掲示情報量が増加傾向にあるため、校舎内での情報伝達方法の適正化を図る
	年度目標	オンライン授業の推進に伴い、新入生の情報リテラシー教育について検討する
	達成指標	情報リテラシー教育に関し、導入ゼミ等の新入生教育への組み込みを提案する

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

No	評価基準	社会連携・社会貢献
7	中期目標	1) オープンキャンパス時に実施しているデザインスクールなどの公開講座を見直し、受験生だけでなく、社会貢献を意識した一般人を対象とする講座への展開を検討する 2) 2020年3月17日に締結された沼津市との「景観・まちづくり等に関する協定」についての取り組みを拡充させる
	年度目標	1) デザインスクールについては好評であるものの、参加者は受験生に限られており、地域社会への貢献の観点から内容の見直しを行う 2) 「景観・まちづくり等に関する協定」をカリキュラムに位置づけるための検討を開始する
	達成指標	1) デザインスクールの改善継続あるいは代替プログラムへの移行を決める 2) 沼津市と協議の上、協定運営のための所管委員会を設置し、協定を利用する授業や研究活動について提案する
<b>【重点目標】</b> 1) 基盤教育（外国語教育を含む）について、全学的な検討が開始された「法政スタンダード」や「文理融合プログラム」など基盤教育の在り方との整合を図るかたちで、抜本的な見直しを図る 2) オンライン授業の推進を将来構想として位置づけ、カリキュラムの在り方を検討する <b>【目標を達成するための施策等】</b> 1) デザイン工学部基盤教育委員会において「デザイン工学部基盤教育方針」を策定する 2) オンライン化が可能な授業と、対面が不可欠な授業を区分することで、得られる諸効果について検討する		

#### 【2020年度中期目標・年度目標に関する大学評価】

<p>デザイン工学部における2020年度の年度目標・達成指標は、中期目標と概ね適合しており、適切である。</p> <p>2020年度重点目標「1）基盤教育（外国語教育を含む）について、全学的な検討が開始された「法政スタンダード」や「文理融合プログラム」など基盤教育の在り方との整合を図るかたちで、抜本的な見直しを図る。2）オンライン授業の推進を将来構想として位置づけ、カリキュラムの在り方を検討する。」は、学部教育の将来構想とかかわる大きな目標であると思われる。中期目標、年度目標と適合させるべく、工夫が望まれる。</p>
---

#### 【大学評価総評】

<p>デザイン工学部では、教育課程の質の向上に関して積極的な取り組みがなされている。学生の自己評価として、学部共通の「デ工学習支援システム」が稼働した。また、2019年度からの新カリキュラムの実施にあたり、履修の手引きの構成を見直し、学生の履修計画がよりスムーズになるよう工夫している。JABEE 研修会への代表教員の参加と研修報告や、授業のビデオ画像収録による自己点検と相互視聴、外部審査員の招聘などに取り組み、教員の質の向上への積極的な取り組みがなされている。</p> <p>2019年度目標に関しては、教育環境およびツールの改善などが着実に進んでおり、評価できる。2019年度施設面で課題となっていた造形制作室の充実が2020年度目標に盛り込まれており、引き続き検討されたい。</p> <p>2020年度の重点目標として、「法政スタンダードや文理融合プログラムなど基盤教育の在り方との整合を図るかたちでの基盤教育の抜本的な見直しを図ること」が挙げられている。2020年度ではその検討が開始されることが望まれる。ほか、「オンライン授業の戦略的な展開」が挙げられており、教育の質をより向上させるよう継続的な取り組みに期待したい。</p>
---

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。